



特別支援学校サッカービューイング

特別支援学校の多くの生徒は、スタジアムからわずか3.4kmの距離にもかかわらず、サッカー観戦を楽しめないでいました。本イベントは横山教頭先生の「サッカーが好きなのに、障がいや家庭の事情等でスタジアムへ行けない子どもたちがたくさんいる。アントラーズを身近に感じてもらい、サッカー観戦を楽しませてあげたい」との想いから実現しました。NTTドコモ様の技術を活用し、体育館にスタジアムからの高画質映像を配信。学校の先生方がコンコースやウォーミングアップの様子を紹介しました。さらにクラブマスコット「しかお」との質問コーナーや応援体験、遠隔ハイタッチ体験などを実施した後、試合観戦を楽しんでもらいました。

- 活動場所** : 茨城県立鹿島特別支援学校、
及び茨城県立カシマサッカースタジアム
- 取組テーマ** : スポーツ観戦の生きるチカラに
- 協働者** : 企業／学校
- 協働者名** : 茨城県立鹿島特別支援学校、株式会社NTTドコモ

活動で工夫した点

生徒たちと普段接している先生方に出演いただくことで、サッカーに馴染みの無い子も楽しめるようにしました。また、ずっと座り続けることが難しい生徒の為に、会場（体育館）に休憩スペースとサッカーボウリングを用意し、息抜き出来るようにしました。その結果、休憩した生徒が再度観戦に戻る姿が見られました。応援体験、ハイタッチ体験、質問タイムもまた、双方向プログラムとして子どもたちを惹きつけるのに効果的でした。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

当初は活動の趣旨・アクティビティが十分に伝わっておらず、参加者が集まりませんでした。教頭先生に許可を頂き、アントラーズスタッフがPTA会議に出席。当日配布予定のタオルマフラーを持参し、実施イメージを共有したことで生徒・保護者計約90名の参加に繋がりました。また、学校の先生方には業務の合間を縫って台本の読み合わせをしていただき、前日リハーサル及び当日は一日中準備～実施終了までご協力くださいました。

クラブや地域の活動後の変化

初の試みでしたが、イベントを楽しもうとする先生方の姿勢が子どもたちに伝播し、沢山の笑顔と歓声に包まれたイベントとなりました。また、クラブとして、スタジアムで観戦できない方々の実情を知り、新たな観戦スタイルを考えるきっかけとなりました。現地観戦してもらうことだけを集客と捉えるのではなく、「行けないけど観戦したい」ニーズに応えられる施策を検討しています。



協働者の声

NTTドコモ増原さんの声：サッカー観戦を「いつもの場所でいつもの仲間と体験する」ことを通し、社会（スタジアム）へ踏み出すきっかけにしてほしい！／横山教頭先生の声：サッカーが好きなのに、障がいや家庭の事情等でスタジアムへ行けない子どもたちがたくさんいる。アントラーズを身近に感じてもらい、サッカー観戦を楽しませてあげたい！／吉澤先生の声「生徒向けのイベントでしたが、私達も楽しく参加でき、とても貴重な経験ができました。選手ウォーミングアップのリポートをピッチサイドでできたことは一生忘れません！」

参加者の声

中部男子生徒「スタジアムじゃなくて体育館だったけど、それでも面白かった！」
高等部男子生徒「好きだったサッカーがもっと好きになった。スタジアムに行ってみたい！」
平野校長「サッカービューイングが社会参加に繋がってほしい。生徒がスタジアムに行きたいと思ってくれば嬉しい。」

活動の「ここぞ！」というPRポイント

映像から先生が登場した瞬間に盛り上がり、タオルマフラーを全員で振ったりした事で非常に一体感が高まりました。涙ぐみながら感想を話してくれた保護者も。費用面・運営面の課題を克服し、今後も続けたいです！

補足

クラブにて事前告知を行い、新聞社4社に取材/掲載いただきました。生徒の顔出しはNGでしたが、学校側は「学校の存在を広く知ってほしい」との事で協力的でした。ホームタウンかつ遠方の小学校でも実施して、学校周辺の住民にも参加してもらうなど、地域の賑わいや障がい者に対する理解向上に発展できますので、ぜひ他クラブでも実施していただければと思います。